

研究開発の窓から目指す世界

— 出来るものから欲しいものを —



取締役 執行役員 研究開発本部長
正 村 達 郎
Tatsuro Masamura
Director, Executive Officer
R&D Center

私たちの仕事は無線技術をベースに、快適なコミュニケーションの世界、安心で安全な世界を実現するための様々な道具を人々に提供することです。求める世界はどんどん変わっていき、それに応える道具もまたどんどん進化しなければなりません。その道具を生み出すため、決して現状に満足せず、常に先回りする技術革新を追及し続けることが、JRCの基本姿勢です。

そのために研究開発の使命はきわめて重要であり、多くのリソースを投入しています。メーカーにおける研究開発は科学の追求では有りません。世の中の役に立つものを提供できてこそ存在意義があります。研究開発という言葉は研究と開発、R and D という“and”で結ばれた2つの言葉でできています。革新的な技術を追及する「研究」とその成果を世の中に役立つ製品に結び付ける「開発」が一体となってはじめて意味があります。そのためにJRCでは研究開発本部に研究所と技術開発部の2つの部隊を設置して、基礎研究から実用化を効率よく進める体制を整えています。

研究と開発のそれぞれの部隊、プロジェクトチーム、個々の研究者、技術者は研究開発という「窓」を通して、目指すべき様々な世界を描き、それを実現するために創意工夫を重ねています。

では、目指す世界とは何でしょう？ それは「実現できる世界」ではなく、「実現してほしい世界」です。お客様に提供できる製品ではなく、お客様がほしい製品を提供しなければなりません。提供者の視点からではなく受け取る側の視点に立たなくてはなりません。しかし、お客様はほしいものを明確に知っているのでしょうか？ 本当は何をしたいのかを認識しているのでしょうか？ 研究開発の使命はお客様が本当は何をしたいのかをお客様の視点で考え、具体的な世界を描くことです。そのためにお客様の視点から眺められる「窓」をしっかりと開くことが

The World Viewed Through R&D Windows

— Develop not what we can do, but what is desired —

必要です。

次に、お客様とは誰でしょう？ マーケットとはどこでしょう？ 目の前のお客様、今在るマーケットだけがお客様ではありません。その先に本当のお客様がいます。所謂、エンドユーザーです。真のお客様が何を求めているのか、マーケットがどのように変わっていくのか、先を見る視点を持たないと方向を見失います。近視眼的な「窓」しか持っていないと、目の前に見える景色しか見ません。そのために進むべき道を間違え、回り道し、道に迷ってしまいます。研究開発のForecastは目の前のお客様が描く予想ではなく、自らの広い窓から見定めたマーケットの予想でなくてはなりません。研究開発の方向がぶれないように、自分自身の目で、広い「窓」から遠方まで見定めて、その目標に向けて着実に一步一步、進んでいくことが必要です。

「創意無限」:創意を実現するためには、無限の努力が必要だ。という言葉は超音波診断装置の開発で有名な故中島茂博士(*1)の言葉です。JRCの研究開発の基礎を作った彼のDNAは、今も、JRCの研究開発者に脈々と流れています。そして、無限の努力のひとつが研究開発の「窓」を絶えず磨き続けていくことです。

このために第一に重要なことは研究開発の「窓」を拡げ、かつ、遠くを見えるようにすることです。広角レンズだけで見ていると目標を見つけることができません。望遠レンズだけで見ていると正しい方向を見失います。マーケットの大きな流れ、お客様が真に求めているものを見失います。広角レンズと望遠レンズの両方を兼ね備えたズームレンズの目を持つことが重要です。

二番目に重要なことはたくさんの窓を開けることです。一人一人がもつ研究開発の窓の広さは限られています。しかし、色々な形の、色々な方向を向いている大小様々な窓を通して景色を見れば、新たな発見につながります。たくさんの「覗き窓」は有機的につながることによって、役に立つ「研究開発の窓」になっていくのです。つまり「窓」の連携が重要です。

第三にもっとも重要なことは、自分自身の目で見ることです。勿論、ただ見ているだけではいけません。見るだけではなく、目標を見定めて、「窓」から出て一步一步進んでいき、目標の世界を現実のものにしていかなければなりません。そのためにも、曇りの無い、本当の世界を映し出せる自分自身のしっかりした「窓」を一人一人が持つことが重要です。

無線技術をベースにした研究開発のたくさんの「窓」を磨いて、さらに、それらをつなぎ合わせて、広い視野を持った、遠くを見通せる「窓」を皆で作って、快適なコミュニケーションの世界、安心で安全な世界を描き、それを実現するための様々な道具を作り続けたいものです。

(*1) 元JRC専務取締役、元アロカ社長。NHKプロジェクトX「創意は無限なり：超音波診断機エコー」で紹介された。